

インバウンドの「変化の兆し」をいち早く
都道府県別訪日外客数と訪問率
月次指標の早期推計：10月レポート

稲田義久 (APIR 研究統括兼数量経済分析センター長)
松林洋一 (APIR 上席研究員)
野村亮輔 (研究推進部)
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail: nomura-r@apiir.or.jp

ポイント

● 11月発表データのレビュー：JNTO 訪日外客数

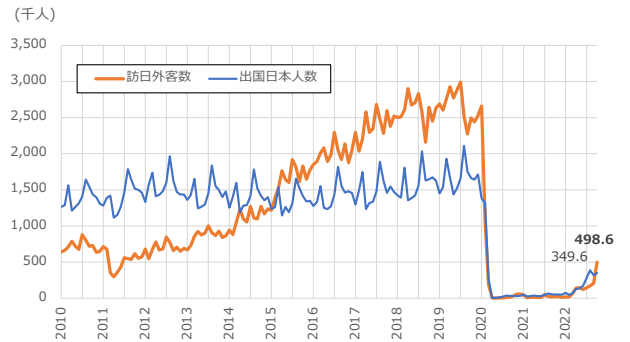
▶ JNTO 訪日外客統計によれば(図1及び表3)、**10月の訪日外客総数(推計値)は49万8,600人と、前月(20万6,500人)から大幅増加し、50万人に迫る水準まで回復した。**2019年同月比では-80.0%となり、マイナス幅は前月(同-90.9%)から大幅縮小。10月11日から1日当たりの入国者数の上限撤廃、外国人観光客の個人旅行解禁など、これまでの厳格な水際対策が大幅緩和された影響があらわれた。なお、出国日本人数は34万9,600人と、3カ月連続で30万人超の水準となった(同-79.0%)。これまでアウトバウンド需要の回復が先行していたが、今月はインバウンド需要が上回った。

▶ 訪日外客数のトップ5を国・地域別にみると、韓国が12万2,900人と最多で、**2020年2月(14万3,896人)以来、単月で10万人超の水準となった。**日本における水際対策緩和に加え、韓国側において帰国時のPCR検査義務が撤廃されたこと等が影響したようである。次いで米国が5万3,200人、香港が3万6,200人、台湾が3万5,000人、タイが3万4,100人と続く。上記5カ国・地域の2019年同月比をみると(図2及び表3)、韓国が同-37.7%と前月(同-83.8%)から大幅に縮小した。また、米国(同-65.3%)、香港(同80.0%)、台湾(同-91.5%)やタイ(同-76.5%)も減少幅はいずれも前月から縮小しており、着実に回復しつつある。

▶ **目的別訪日外客総数(暫定値)をみれば、8月は16万9,902人となった(2019年同月比-93.3%)(図3及び表4)。**うち、観光客は3万1,441人(同-98.6%)、商用客は3万7,349人(同-67.0%)、その他客は10万1,112人(同-49.5%)であった。伸びをみれば、商用客は前月(同-73.5%)から減少幅は着実に縮小しているが、観光客は依然戻りは遅い。

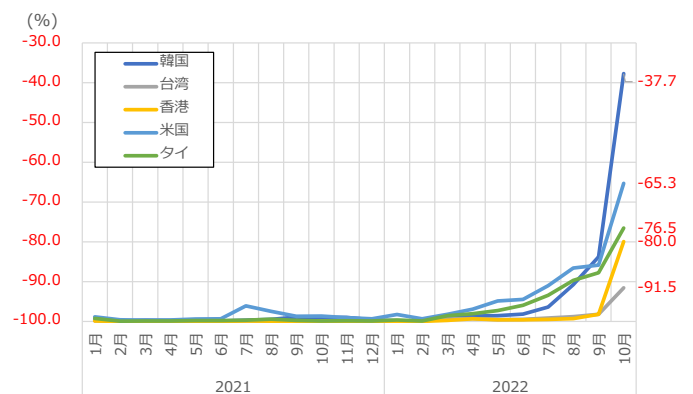
▶ 11月以降も水際対策の緩和が継続されることもあり、訪日外客数は持ち直しの傾向が続こう。ただし、コロナ禍前の訪日外客数の**30%近くを占めていた中国はゼロコロナ政策の影響もあり、22年足下は8.8%と低調**である。足下11月において、中国国内でCOVID-19の感染拡大が続いており、国内の移動制限に加え、海外への出国も制限されている。10月の中国からの訪日外客数は2万1,500人(2019年同月比-97.1%)となっており依然低水準である。中国の訪日外客数がコロナ禍前の水準に戻るには時間を要するため、**訪日外客数全体の戻りは緩慢となる**ろう。

図1 訪日外客数及び出国日本人数の推移



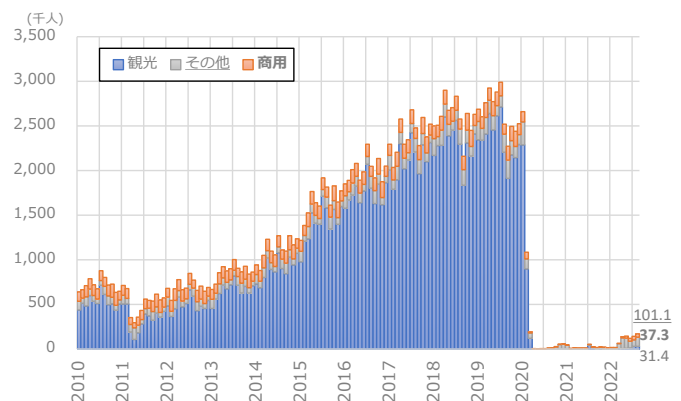
出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成
注) 2021年まで確定値、22年1-8月は暫定値、9-10月は推計値

図2 上位5カ国・地域19年比の推移



出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成。

図3 目的別訪日外客数推移



出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成
注) 「観光客」とは、短期滞在の入国者から「商用客」を引いた入国外国人で、親族友人訪問を含んでいる。「その他客」とは、観光、商用目的を除く入

*本レポートで使用している観光庁「訪日外国人消費動向調査」の統計調査が現在行われていないため、2020年11月公表分レポートより内容を一部変更していることにご留意頂きたい。

トピックス 1

●10月関西の財貨・サービス貿易及び9月のサービス産業動向

▶ 関西 10月の輸出は前年同月比+15.6%と20カ月連続の増加だが、前月(同+19.5%)から減速した(図4)。また、輸入額は同+48.6%と21カ月連続で増加し、前月(同+33.2%)から加速。結果、関西の貿易収支は+647億円となった(同-84.9%)。2カ月連続の黒字だが、輸出の伸びが減速し、輸入の伸びが加速したことから黒字幅は前月から縮小した。

▶ 対中貿易動向をみると(図5)、関西10月の対中輸出は前年同月比+0.6%と6カ月連続の増加だが、伸びは前月(同+12.9%)から大幅減速した。輸出増に寄与したのは映像機器や原動機等であった。また、対中輸入は同+38.4%と6カ月連続の増加(前月：同+17.4%)。うち、輸入増に寄与したのは衣類及び同附属品や無機化合物等であった。

▶ 10月の関西国際空港(以下、関空)への訪日外客数は11万6,658人と、2020年2月(22万8,987人)以来、単月で10万人超の水準となった。2019年同月比では-82.1%と前月(同-93.1%)から大幅縮小。また、日本人出国者数は4万8,515人で、前月(3万7,649人)から増加した。2019年同月比では-85.0%と、7カ月連続で減少幅は縮小した(前月：同-88.8%)。

▶ 9月のサービス業の活動は前月から小幅悪化だが、持ち直し傾向が続く。サービス業の生産活動を示す第3次産業活動指数(季節調整済み：2015年平均=100)をみれば(図7)、9月は99.5で前月比-0.4%低下し、2カ月ぶりのマイナスとなった(前月：同+0.7%)。また、対面型サービス業指数*は91.0となり同-1.2%低下し、2カ月ぶりのマイナス(前月：同+3.5%)。うち、飲食店、飲食サービス業(同-3.8%)や運輸業(同-1.9%)が低下した。結果、7-9月期の第3次産業活動指数は99.5、前期比-0.1%小幅低下し2四半期ぶりのマイナス(4-6月期：同+2.3%)。一方、対面型サービス業は90.7、同+1.1%上昇。2四半期連続のプラスだが、7月、8月の感染拡大を受け、4-6月期(同+6.2%)から伸びは減速した。

▶ 観光関連指数**(2015年平均=100)は、82.9と前月比+1.6%上昇し、2カ月連続のプラス(前月：同+1.4%)(図7)。9月は感染状況が落ち着いたこともあり、宿泊業(同+3.1%)や旅行業(同+46.1%)がいずれも上昇した(前月：宿泊業：同+16.2%、旅行業：同-6.2%)。7-9月期では、81.7、前期比-0.7%低下し、2四半期ぶりのマイナスとなった(4-6月期：同+12.7%)。なお、10月11日から全国旅行支援の開始や水際対策の大幅緩和もあり、サービス消費の回復が期待されよう。

*対面型サービス業は、運輸業、宿泊業、飲食店、飲食サービス業、その他の生活関連サービス業及び娯楽業を指す。

**観光関連指数は第3次産業活動指数のうち、観光庁「旅行・観光サテライト勘定」の分類に対応する、鉄道旅客運送業、道路旅客運送業、水運旅客運送業、航空旅客運送業、旅客運送業、その他のレンタル、自動車賃貸業、宿泊業、飲食店、飲食サービス業、旅行業、映画館、劇場・興行団の各指数の加重平均。

図4 関西 対世界貿易の推移

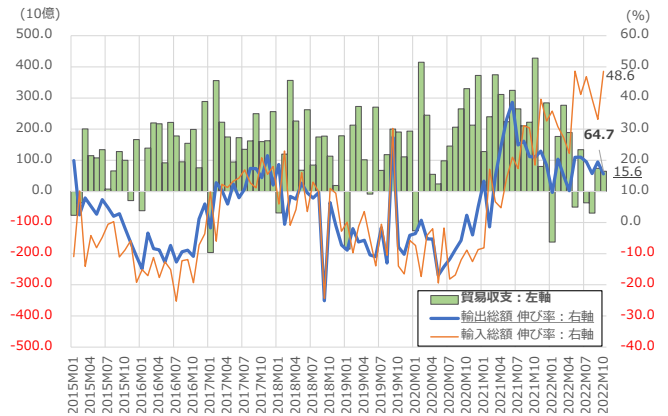
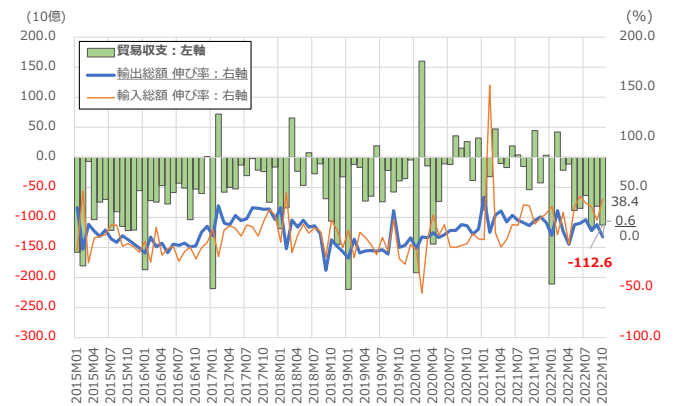
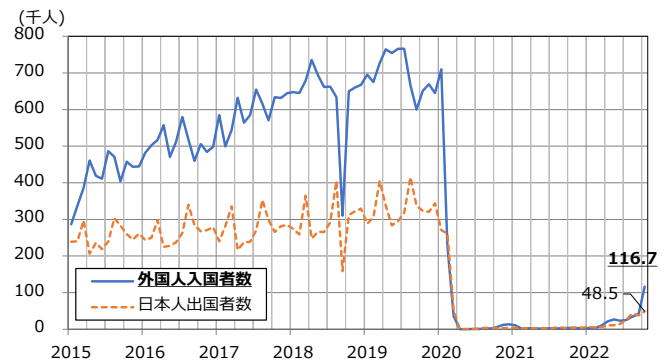


図5 関西 対中貿易の推移



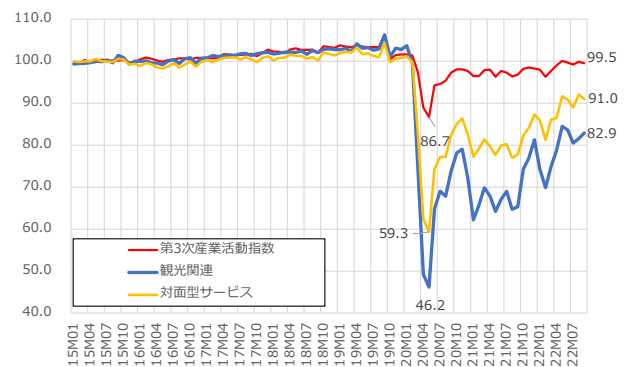
出所：「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」より筆者作成

図6 関西国際空港 訪日外客入国者数推移



出所：出入国管理統計より筆者作成。2022年10月値は速報値

図7 観光関連 対面型サービス 第3次産業：2015年=100



出所：経済産業省「第3次産業活動指数」より筆者作成

トピックス 2

● 8月延べ宿泊者数の動向：関西2府8県

▶観光庁によれば、8月の関西2府8県の延べ宿泊者数(全体)は8,720.8千人泊であった(表1)。2019年同月比では-31.5%と前月(同-30.4%)から減少幅は幾分拡大。行動制限のない夏季休暇があったものの、COVID-19の感染再拡大が悪影響した。

▶日本人延べ宿泊者数は8,598.3千人泊であった。2019年同月比-13.0%と前月(同-1.9%)から減少幅は拡大(表1及び図8)。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府2,702.6千人泊、京都府1,907.5千人泊、兵庫県1,300.1千人泊、三重県759.7千人泊、和歌山県516.2千人泊、滋賀県400.2千人泊、福井県329.0千人泊、徳島県261.0千人泊、奈良県216.3千人泊、鳥取県205.8千人泊であった。2019年同月比でみると、他府県が減少しているに対して、京都府は同+13.6%と3カ月連続のプラスとなった(前月：同+26.0%)。

▶外国人延べ宿泊者数は122.5千人泊と前月(105.1千人泊)から幾分増加した。2019年同月比-95.7%と減少幅は前月(同-96.7%)から小幅縮小(表1及び図9)。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府64.8千人泊、京都府39.6千人泊、兵庫県6.6千人泊、三重県3.7千人泊、滋賀県2.3千人泊、和歌山県1.8千人泊、福井県1.5千人泊、奈良県1.1千人泊、徳島県0.8千人泊、鳥取県0.4千人泊であった。2019年同月比でみると、福井県(同-75.9%)や三重県(同-89.4%)を除き、依然90%超の減少が続く。

▶関西2府8県延べ宿泊者を居住地別でみると(図10)、県内の延べ宿泊者数は1,954.9千人泊(2019年同月比+14.1%)、県外は6,493.3千人泊(同-36.6%)であった。COVID-19の感染状況悪化で外出機会が減少したこともあり、前月から県内の増加幅(同+23.5%)は縮小し、県外の減少幅(同-36.3%)は小幅拡大した。

▶9月の全国延べ宿泊者数(全体、1次速報ベース)は39,138千人泊、2019年同月比-19.7%と減少幅は前月(同-25.0%)から縮小した。今後の延べ宿泊者の動向については全国旅行支援事業の開始と水際対策の大幅緩和により、日本人及び外国人宿泊者の回復が期待される。

図8 府県別日本人延べ宿泊者数 推移

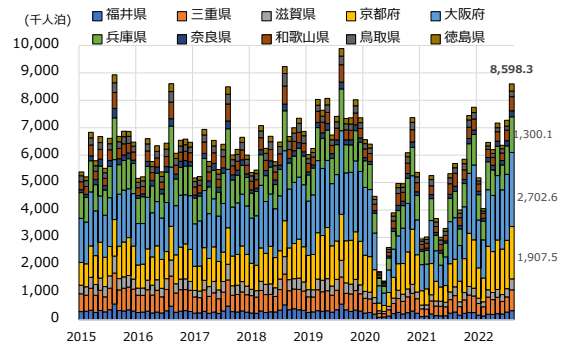


図9 府県別外国人延べ宿泊者数の推移

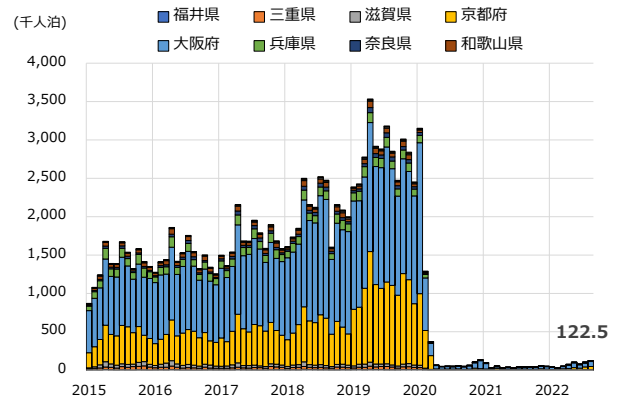
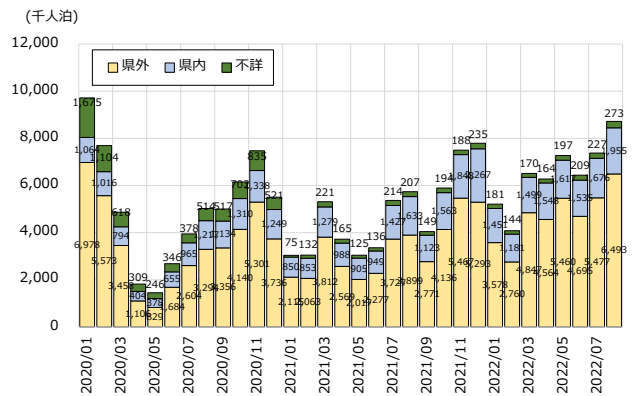


図10 関西 居住地別延べ宿泊者比率の推移



注) 県外の宿泊者には外国人宿泊者も含まれる。

表1 関西 延べ宿泊者数伸び率：8月

2022年8月	総数			日本人			外国人		
	延べ宿泊者数： (千人泊)	伸び率： 21年比(%)	伸び率： 19年比(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	伸び率： 21年比(%)	伸び率： 19年比(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	伸び率： 21年比(%)	伸び率： 19年比(%)
福井県	330.5	17.6	-42.5	329.0	17.5	-42.1	1.5	42.9	-75.9
三重県	763.4	27.6	-25.6	759.7	27.3	-23.3	3.7	124.0	-89.4
滋賀県	402.5	24.8	-36.4	400.2	24.8	-34.0	2.3	15.9	-91.5
京都府	1,947.1	92.2	-28.3	1,907.5	89.8	13.6	39.6	406.3	-69.2
大阪府	2,767.3	80.3	-39.4	2,702.6	78.5	-11.4	64.8	216.6	-95.7
兵庫県	1,306.7	34.6	-19.4	1,300.1	34.7	-14.6	6.6	21.4	-93.4
奈良県	217.4	20.8	-27.2	216.3	20.5	-11.8	1.1	142.2	-97.9
和歌山県	518.0	8.2	-24.5	516.2	8.0	-18.9	1.8	155.1	-96.4
鳥取県	206.2	2.8	-36.6	205.8	3.2	-34.2	0.4	-67.6	-97.2
徳島県	261.8	65.0	-9.5	261.0	65.1	-5.6	0.8	41.1	-93.8
関西2府4県	7,158.9	59.1	-32.0	7,042.8	57.8	-9.0	116.1	215.3	-95.8
関西2府8県	8,720.8	52.0	-31.5	8,598.3	50.9	-13.0	122.5	197.2	-95.7
全国	47,450.4	51.6	-25.0	46,722.2	52.3	-13.1	728.2	18.9	-92.3

出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」より筆者作成(図8~10及び表1)

トピックス 3

●2022年7-9月期国内旅行消費の動向：関西2府8県*

▶観光庁によれば、2022年7-9月期関西(2府8県ベース)の国内旅行消費額(速報)は9,916.1億円であった(表2)。2019年同期比-6.9%と4-6月期(同-37.6%)からマイナス幅は大幅縮小した。7-8月はCOVID-19の感染状況が悪化していたものの、9月には感染拡大が落ち着いたことで宿泊旅行を中心に回復した。府県別にみると、**三重県(同+40.6%)**や**奈良県(同+18.4%)**は**プラス**に転じ、和歌山県、鳥取県以外の府県ではマイナス幅が前期より縮小した。

▶うち、**宿泊旅行消費額**は、7,585.2億円で2019年同期比-5.3%となり、4-6月期(同-29.4%)からマイナス幅は大幅縮小した(図13及び表2)。府県別に消費額を降順にみれば、大阪府1,919.7億円(同-8.5%)、三重県1,362.1億円(同+78.9%)、兵庫県1,263.1億円(同-16.3%)、京都府1,230.2億円(同-5.0%)、和歌山県532.1億円(同-23.7%)、福井県349.9億円(同-24.5%)、滋賀県314.3億円(同+35.4%)、奈良県257.9億円(同-3.7%)、鳥取県225.2億円(同-35.6%)、徳島県130.6億円(同-60.9%)であった。**三重県と滋賀県がプラス**に転じ、和歌山県、鳥取県、徳島県を除く府県ではマイナス幅が縮小した。

▶うち、**日帰り旅行額**は2,330.8億円で2019年同期比-11.9%と前期(同-54.7%)からマイナス幅は縮小した(図14及び表2)。府県別に消費額を降順にみれば、大阪府842.4億円(同+23.8%)、兵庫県396.2億円(同-25.2%)、京都府321.5億円(同-6.8%)、三重県230.3億円(同-38.0%)、奈良県145.1億円(同+100.1%)、和歌山県103.7億円(同-20.4%)、滋賀県97.0億円(同-52.0%)、鳥取県79.7億円(同-7.0%)、福井県73.1億円(同-7.1%)、徳島県41.7億円(同-72.3%)であった。**大阪府や奈良県が唯一プラス**に転じた。

*トピックス3は四半期ごとの掲載である。

図13 関西2府8県 宿泊旅行消費額の推移

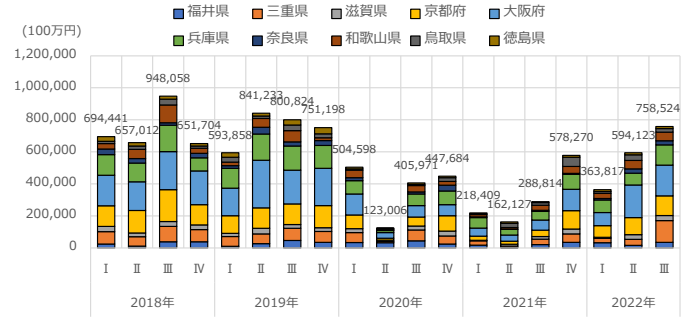
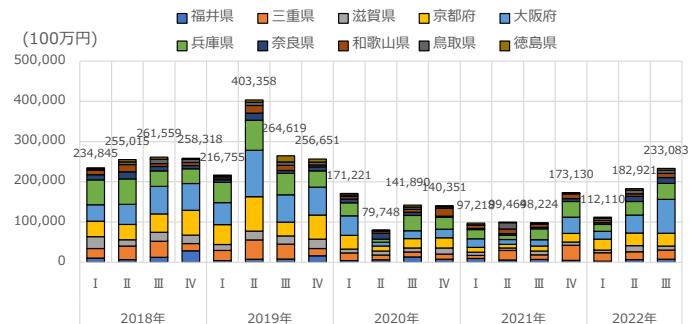


図14 関西2府8県 日帰り旅行消費額の推移



(注) 宿泊旅行、日帰り旅行ともに、観光・レクリエーション目的以外に帰省・知人訪問等、出張・業務目的を含む。

2021年・22年4-6月期までのデータは確報。22年7-9月期は速報(上図も同様)。

出所:観光庁『旅行・観光消費動向調査』より作成。

表2 関西 国内旅行消費額：2022年7-9月

2022Q3	国内旅行消費額			宿泊旅行消費額			日帰り旅行消費額		
	金額： 100万円	伸び率： 21年7-9月期比 (%)	伸び率： 19年7-9月期比 (%)	金額： 100万円	伸び率： 21年7-9月期比 (%)	伸び率： 19年7-9月期比 (%)	金額： 100万円	伸び率： 21年7-9月期比 (%)	伸び率： 19年7-9月期比 (%)
福井県	42,301.5	52.3	-22.0	34,987.9	68.8	-24.5	7,313.6	3.7	-7.1
三重県	159,249.5	253.4	40.6	136,214.8	301.2	78.9	23,034.7	107.2	-38.0
滋賀県	41,135.4	59.1	-5.3	31,433.2	95.8	35.4	9,702.3	-1.0	-52.0
京都府	155,170.9	196.5	-5.4	123,017.0	207.8	-5.0	32,153.9	159.9	-6.8
大阪府	276,211.3	247.8	-0.6	191,972.9	201.2	-8.5	84,238.4	437.2	23.8
兵庫県	165,932.2	105.2	-18.6	126,314.8	133.9	-16.3	39,617.4	47.5	-25.2
奈良県	40,300.4	312.9	18.4	25,786.3	328.2	-3.7	14,514.1	288.2	100.1
和歌山県	63,581.2	55.9	-23.2	53,214.5	64.3	-23.7	10,366.7	23.4	-20.4
鳥取県	30,494.1	86.7	-30.0	22,519.1	43.8	-35.6	7,975.0	1,090.7	-7.0
徳島県	17,229.8	95.2	-64.5	13,063.4	107.2	-60.9	4,166.5	65.1	-72.3
関西2府8県	991,606.5	156.2	-6.9	758,523.9	162.6	-5.3	233,082.6	137.3	-11.9

出所:観光庁『旅行・観光消費動向調査』より作成。

表3 2022年10月 訪日外客数 (JNTO 推計値) (対2019年比)

国・地域	総数 Total			総数 Total		
	2019年	2022年	伸率(%)	2019年	2022年	伸率(%)
	10月	10月		1-10月	1-10月	
総数	2,496,568	498,600	-80.0	26,914,388	1,527,200	-94.3
総数(韓国・その他除く)	2,159,136	332,600	-84.6	20,758,802	1,051,000	-94.9
韓国	197,281	122,900	-37.7	5,131,596	241,000	-95.3
中国	730,631	21,500	-97.1	8,133,209	134,600	-98.3
台湾	413,701	35,000	-91.5	4,150,231	61,300	-98.5
香港	180,562	36,200	-80.0	1,841,448	44,900	-97.6
タイ	145,333	34,100	-76.5	1,013,776	62,900	-93.8
シンガポール	41,937	14,300	-65.9	326,581	24,600	-92.5
マレーシア	48,864	8,800	-82.0	358,355	20,400	-94.3
インドネシア	34,094	11,100	-67.4	316,363	68,400	-78.4
フィリピン	64,690	14,800	-77.1	466,809	65,200	-86.0
ベトナム	46,510	30,800	-33.8	422,553	222,400	-47.4
インド	13,929	6,000	-56.9	149,294	38,500	-74.2
豪州	51,563	11,700	-77.3	500,791	26,700	-94.7
米国	153,363	53,200	-65.3	1,430,370	129,700	-90.9
カナダ	37,667	9,800	-74.0	306,814	19,400	-93.7
メキシコ	7,385	2,000	-72.9	58,752	4,700	-92.0
英国	68,401	10,300	-84.9	358,820	28,600	-92.0
フランス	39,457	11,100	-71.9	291,782	31,200	-89.3
ドイツ	26,276	8,900	-66.1	203,380	28,300	-86.1
イタリア	14,731	4,500	-69.5	139,223	13,500	-90.3
ロシア	13,739	2,800	-79.6	112,413	8,800	-92.2
スペイン	14,348	1,600	-88.8	98,068	6,800	-93.1
中東地域	11,955	4,100	-65.7	79,770	10,100	-87.3
その他	140,151	43,100	-69.2	1,023,990	235,200	-77.0

表4 2022年8月 目的別訪日外客数 (JNTO 暫定値) (対2019年比)

国・地域	総数 Total			観光客 Tourism			商用客 Business			その他客 Others		
	2019年	2022年	伸率(%)	2019年	2022年	伸率(%)	2019年	2022年	伸率(%)	2019年	2022年	伸率(%)
	8月	8月		8月	8月		8月	8月		8月		
総数	2,520,134	169,902	-93.3	2,206,746	31,441	-98.6	113,052	37,349	-67.0	200,336	101,112	-49.5
韓国	308,730	28,515	-90.8	262,847	8,715	-96.7	18,866	8,171	-56.7	27,017	11,629	-57.0
中国	1,000,639	12,332	-98.8	909,161	1,972	-99.8	27,069	2,472	-90.9	64,409	7,888	-87.8
台湾	420,279	5,007	-98.8	401,901	777	-99.8	8,278	1,905	-77.0	10,100	2,325	-77.0
香港	190,260	1,299	-99.3	186,357	373	-99.8	2,398	518	-78.4	1,505	408	-72.9
タイ	49,589	5,115	-89.7	43,631	1,847	-95.8	2,444	1,301	-46.8	3,514	1,967	-44.0
シンガポール	19,698	1,763	-91.0	16,930	238	-98.6	2,132	1,162	-45.5	636	363	-42.9
マレーシア	19,827	2,248	-88.7	16,173	309	-98.1	1,790	1,067	-40.4	1,864	872	-53.2
インドネシア	16,160	6,933	-57.1	9,056	753	-91.7	2,055	879	-57.2	5,049	5,301	5.0
フィリピン	31,470	7,824	-75.1	22,733	2,708	-88.1	1,771	793	-55.2	6,966	4,323	-37.9
ベトナム	43,709	33,052	-24.4	11,989	1,138	-90.5	2,894	1,120	-61.3	28,826	30,794	6.8
インド	13,308	5,502	-58.7	4,424	452	-89.8	4,161	1,396	-66.5	4,723	3,654	-22.6
豪州	26,951	2,697	-90.0	23,059	584	-97.5	2,224	1,140	-48.7	1,668	973	-41.7
米国	117,828	15,823	-86.6	93,681	4,165	-95.6	13,233	4,667	-64.7	10,914	6,991	-35.9
カナダ	27,568	2,009	-92.7	24,504	549	-97.8	1,192	455	-61.8	1,872	1,005	-46.3
メキシコ	4,800	514	-89.3	4,261	106	-97.5	242	220	-9.1	297	188	-36.7
英国	26,213	3,924	-85.0	19,895	734	-96.3	3,237	1,162	-64.1	3,081	2,028	-34.2
フランス	30,851	3,512	-88.6	26,231	807	-96.9	1,813	904	-50.1	2,807	1,801	-35.8
ドイツ	17,264	3,458	-80.0	12,767	843	-93.4	2,962	1,582	-46.6	1,535	1,033	-32.7
イタリア	22,804	1,582	-93.1	21,176	547	-97.4	857	527	-38.5	771	508	-34.1
ロシア	8,321	655	-92.1	5,976	168	-97.2	1,319	189	-85.7	1,026	298	-71.0
スペイン	20,009	1,116	-94.4	19,029	384	-98.0	432	298	-31.0	548	434	-20.8
中東地域	6,254	926	-85.2	4,902	95	-98.1	669	378	-43.5	683	453	-33.7
その他	97,602	24,096	-99.8	66,063	3,177	-100.0	11,014	5,043	-99.5	20,525	15,876	-99.2

注) 目的別訪日外客数の定義については、図2 注参照。

出所: 日本政府観光局(JNTO)、2022年11月16日付より筆者加工